

目からウロコのダントツ企業情報ソース

《初出:2005.01.07》

TOP1% SPECIAL

Vol.S002



世界最先端のマーケティング手法を使って、90日で業績アップを目指す実践経営者のための、現場で即活用できる情報を手に入れることができます。



<http://www.top1special.com/>

プロの人、ごっこの人

ビジネスサポートあうん 岡本吏郎

フォレスト出版主催の「フォレスト祭り」のパネルディスカッションで、パネラーが「働け」という月並みなことばかりを言ったので質問をいただいた。

「“楽しんで稼ぐ”的なものにも共鳴するし、今日の「働け」というのにも共鳴はしますが、働くばかりで楽しいことはしてはいけないのでしょうか？」

こんな感じの質問だった。

パネラーそれぞれが何か答えたが、私も含めて

「いやー、楽しんでやればいいんですよー」なんてマヌケな答えをしてしまった。

「ああいうのは、雰囲気や他者の発言に引っ張られる」と思った。

少し偉そうなことも言ったが、胸につかえるので、もう少し答えたい。

ビジネスの世界には、「プロ」と「ごっこ」の人がいる。

あなたは、どっちですか？

回答はこれだけで良かった。

そう言えなくて反省した。

当然、プロだって遊ぶ。

遊ばなきゃやっていけない。

それにバリバリの成功者は、遊び方も派手な場合が多い。

でも、彼ら「プロ」は仕事で楽しもうなんて思わない。

そんなことを思う奴は、「ビジネスごっこ」をしているだけだ。

「“プロ”は仕事を楽しくもうなんて思わない」と言ったが、プロが仕事を楽しくないと言っているわけではない。

楽しくもうと思っているわけではないが、結果的に楽しんでいる。

ここのニュアンスの違いが重要だ。

だから、オリンピック選手の「楽しんできます」という話には違和感を覚える。

オリンピック選手はアマチュアだからいいのかもしれないが、「何年も練習してきたのに、楽しむというのはどうなのか？」と思う。

結果的に「楽しめた」という話が伝わりながらこんな話になったのだろう。

これは、「プラス思考」の話も一緒だ。

詳しくは私の4冊目「成功はどこからやってくるのか？」に書いたが、「プラス思考」になれば成功するというわけではない。

でも、成功者は「プラス思考」だ。

こういったレトリックが、本質から人を遠ざけるのだ。

最近の情報過多は末期的だと思う。

情報提供を仕事とする私が言っただけとはいけませんが、これからはじまる情報革命の前哨戦は、ずいぶん知識だけの人たちを作ってしまったと思う。（それは必然なんだけど・・・）

先ほどの質問をもう一度考えてみよう、

「“楽しんで稼ぐ”的なものにも共鳴するし、今日の「働け」というのにも共鳴はしますが、働くばかりで楽しいことはしてはいけませんか？」

こんな質問が出る今の世の中って何なのだろう？

この質問自体が現代的だ。

そして、この質問の回答をもう一度考えてみよう。

そうすると答えはこうなる。

「そんなこと自分で考えろ！」

これが、その人のことを考えた場合の本当の回答だった。

最近、ノウハウが氾濫して、誰もが安易な答えを求める。その安易な答えを実行して成功するわけではないのだが、ビジネスそのものが大衆化してしまったようで、そんな景色が多く目に映る。

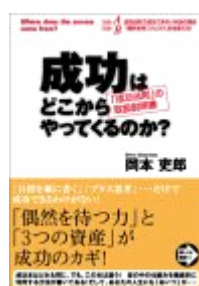
ノウハウやツールに振り回される前に、答えなんか気にしないでまずはやってみよう。

答えなんか経験で得るしかないのだ。

実は、「プロ」と「ごっこ」の人が同居するビジネスの世界では競争は、まったく起こっていない。

毎日、必然的な結果だけが起きている・・・。

イチローも言っているように「手抜きし存在できるものが成立することがおかしい」のだ。



成功はどこからやってくるのか? ~「成功法則」の取扱説明書~

価格： ¥1,470 (税込)

岡本 吏郎 (著)

単行本： 251 p

出版社： フォレスト出版

ISBN： 4894511819

警告!

このレポートに収録されている文章および内容については、ダウンロードした方がご自身で読み、ご自身のために役立てる用途に限定して無料配布しています。

このレポートを、販売、オークション、その他の目的で利用するには、著作権者の許諾が必要になります。

このレポートに含まれている内容を、その一部でも著作権者の許諾なしに、複製、改変、配布を行うことおよびインターネット上で提供する等により、一般へ送ることは法律によって固く禁止されています。